

オホーツク海・日本海 4 月 魚探情報

—試験調査船「北洋丸」による海洋観測および魚群分布調査の結果—



道総研

2024 年 5 月 22 日

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場

(担当：調査研究部 呂 0162-32-7166)

- ◎オホーツク海沿岸域の底層水温は 3～4℃台の水温帯が優占
- ◎日本海沿岸域の底層水温は 5℃台の水温帯が優占
- ◎オホーツク海沿岸域における魚群反応量は前年より多く、水深 100～200m の広い海域にスケトウダラとみられる魚群反応が分布
- ◎日本海では小樽沖にスケトウダラとみられる濃い魚群反応が分布

1 調査概要

2024 年 4 月 11～17 日に稚内～積丹沖の日本海，稚内～網走沖のオホーツク海において，試験調査船北洋丸により，海洋観測および計量魚探を用いた魚群分布調査を実施しました。

2 水温観測の結果

調査海域における底層水温（海底上 5～10m，水深 400m 以深の海域は深度 400m の水温）の分布を図 1 に示します。今年 4 月の底層水温は，オホーツク海では宗谷暖流の流入により 3～4℃台，沖合域では 1℃以下の海域が広がっていました。日本海の沿岸海域は 5℃台の海域が広がっており，両海域とも前年（2023 年）より底水温は低い傾向がありました。

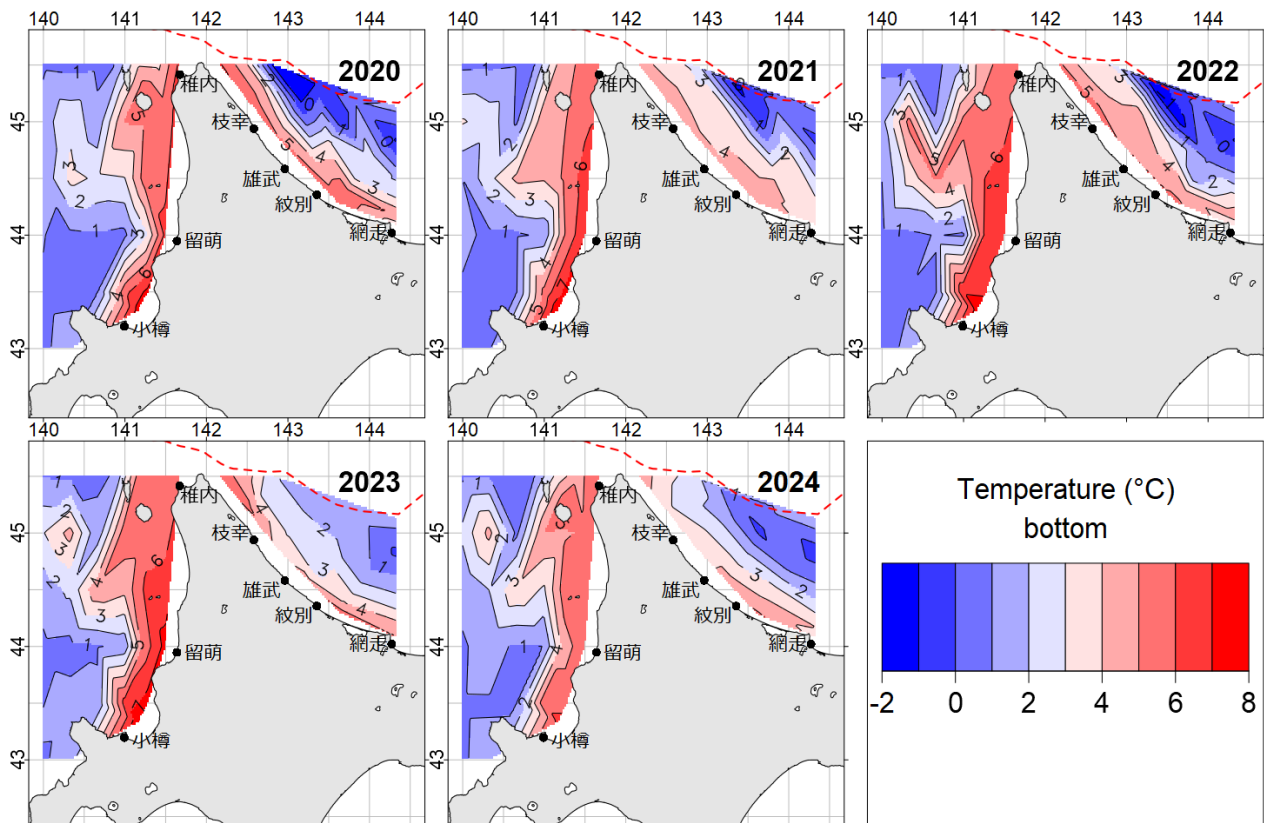


図 1. 北海道北部沿岸における底層水温（℃）の分布. 2020～2024 年 4 月.

3 魚群分布調査の結果（オホーツク海）

計量魚探で得られた1海里あたり魚群反応量の分布を図2に示します。今年の調査では、魚群反応量は前年より多く、宗谷岬東方沖から網走沖に至る水深100~200mの広い範囲と北見大和堆の北側海域において、スケトウダラとみられる魚群反応が確認されました（図3）。

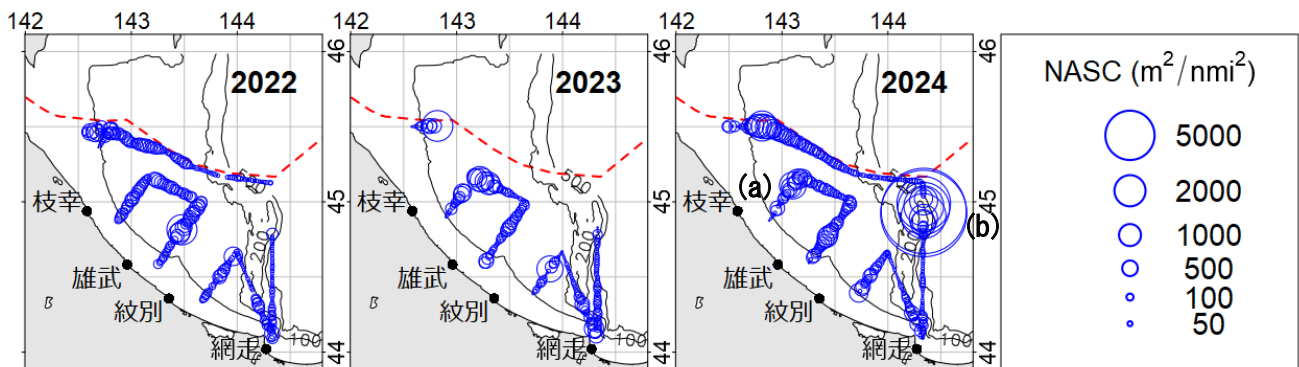


図2. 北海道沿岸オホーツク海における魚群反応量 $NASC$ (m^2/nmi^2) の分布. 2022~2024年4月.

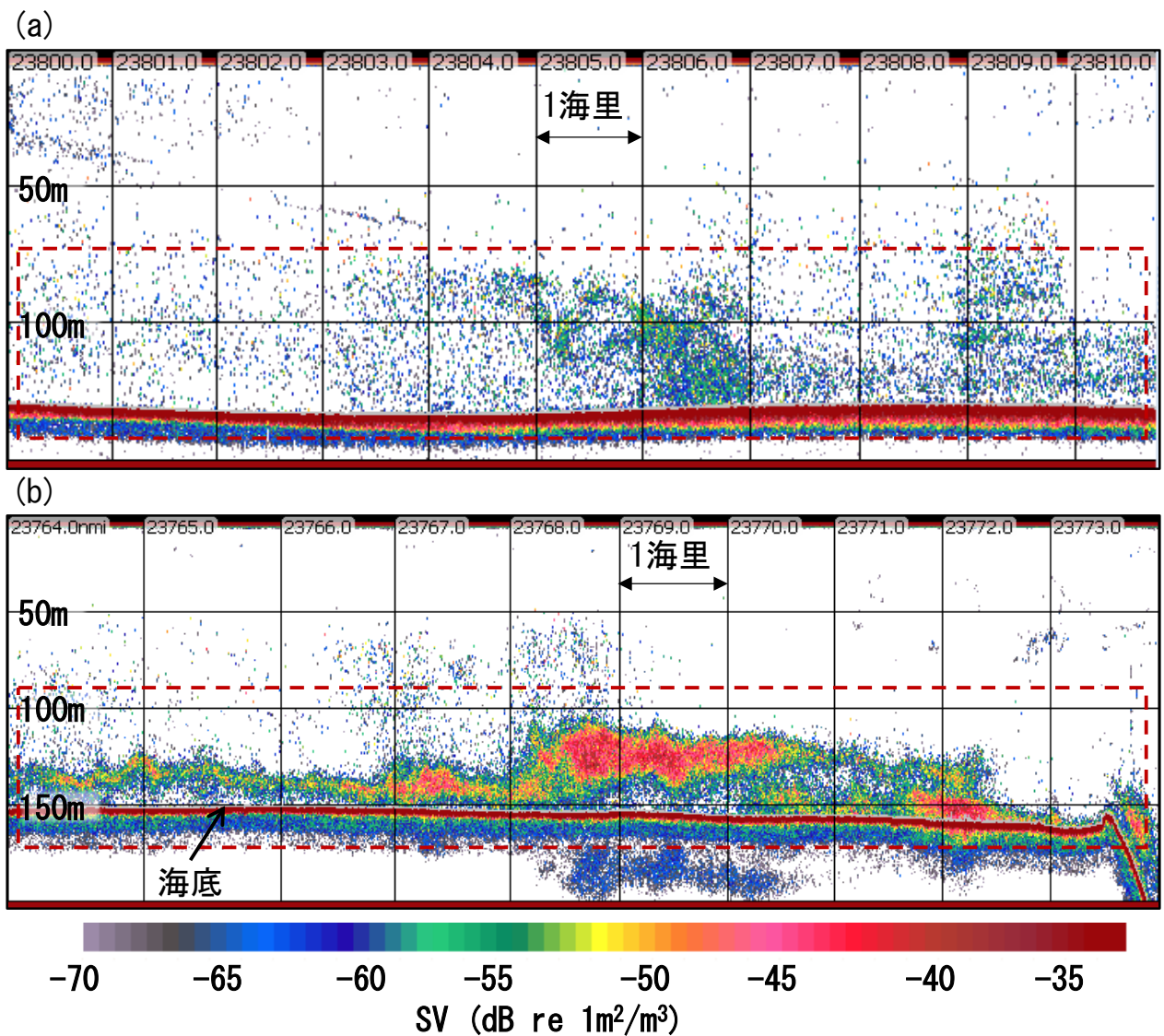


図3. 枝幸~雄武沖（a, 2024年4月11日19:30頃）および北見大和堆の北側海域（b, 2024年4月12日19:40頃）に観察された魚探画像（赤破線枠内：スケトウダラ）。

4 魚群分布調査の結果（日本海）

計量魚探で得られた1海里あたり魚群反応量の分布を図4に示します。昨年調査と比較すると、天売・焼尻沖の魚探反応量は減少した一方、小樽沖の反応量は大幅に増加し、水深200～500mの深度100～300mにスケトウダラとみられる魚群反応が確認されました（図5）。

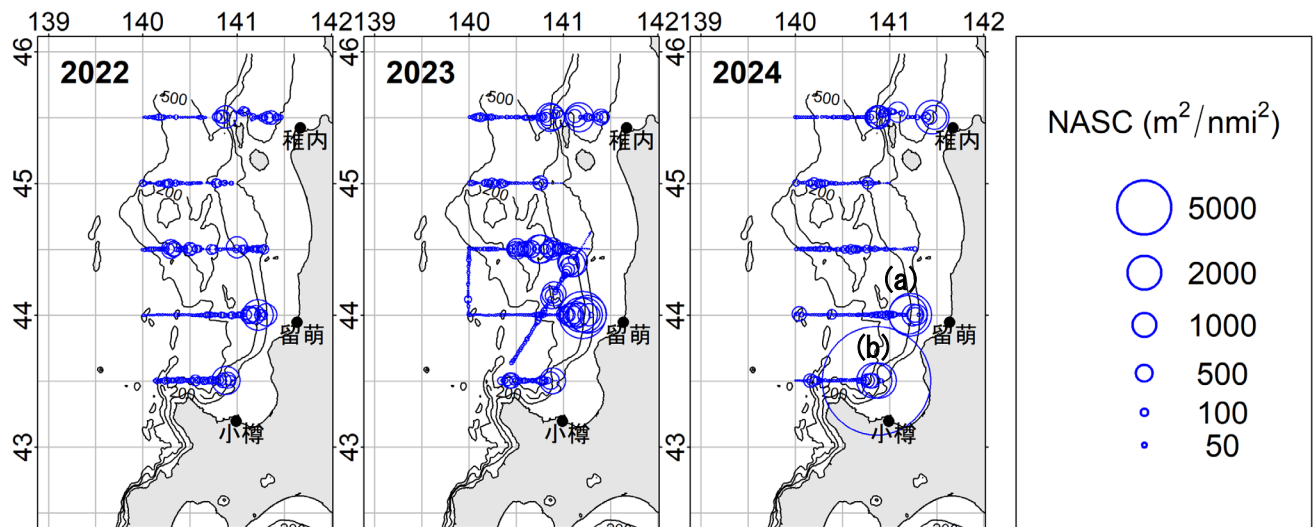


図4. 北海道西部日本海における魚群反応量 $NASC (m^2/nmi^2)$ の分布. 2022～2024 年 4 月.

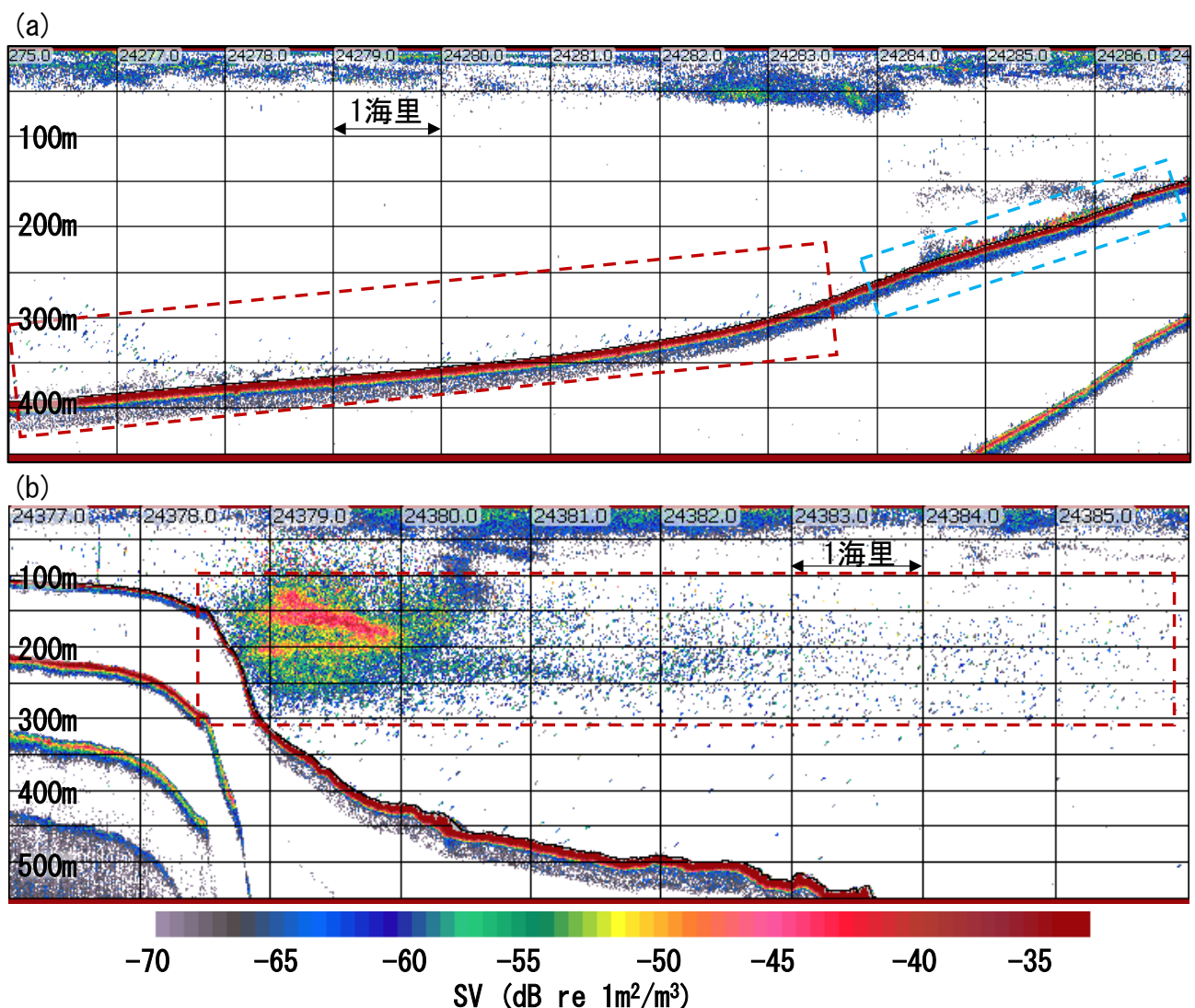


図5. 留萌沖 (a, 2024 年 4 月 15 日 8:50 頃) および小樽沖 (b, 2024 年 4 月 15 日 19:30 頃) に観察された魚探画像 (赤破線枠内: スケトウダラ, 青破線枠内: ニシン).